

兵庫県立美術館 2010年度コレクション展

特集1「新収蔵品から見た現代」

特集2「ブラジル日系人画家の系譜」

小企画「美術の中のかたち - 金氏徹平展」



オスカー・大岩《www.com》 2003年

- 会期等 2010年7月17日(土) - 11月7日(日)
休館日 月曜日(ただし、7月19日(月)、9月20日、10月11日は開館、翌火曜日休館)
会期中に展示替えがあります
(前期:7月17日(土) - 9月12日(日) 後期:9月14日(火) - 11月7日(日))
開館時間 午前10時から午後6時まで
特別展開催中の金・土曜日は夜間開館(午後8時まで) 入場は閉館の30分前まで
- 会場 兵庫県立美術館 常設展示室
- 主催 兵庫県立美術館
- 観覧料金 一般500(400)[300]円 / 大学生400(320)[240]円 / 高校生250(200)[150]円
()内は20名以上の団体割引料金、[]内は特別展セット割引料金
中学生以下無料
障害のある方とその介護者(1名)は無料
65歳以上の方は、一般料金の半額

コレクション展 では、この一年間に当館に収蔵された作品を特集1「新収蔵品から見た現代」、特集2「ブラジル日系人画家の系譜」として紹介します。また、小企画として「美術の中のかたち - 金氏徹平展」を開催します。この一年間当館に新たに収蔵された作品は、購入寄贈を合わせて114点に及びます。これまでの収蔵方針に添って兵庫ゆかりの作家を中心とした現代作家の作品が収蔵されました。特筆すべきは、2008年のブラジル移民100周年を記念して、サンパウロ在住のコレクター、リカルド・タケシ・赤川氏より寄贈を受けたブラジル日系人画家の作品群です。日本国内では初めてのまとまった日系人画家の作品収蔵であり、作品を通じてブラジルへ移住した人々の美術への思いをたどることができます。一方、恒例の「美術の中のかたち」では、近年の評価著しい金氏徹平による展覧会を開催します。

特集1「新収蔵品から見た現代」(1階展示室)

歴史の新収蔵 (出品点数約14点)

今回の新収蔵品展の中でも歴史的な1点です。ヴィクトール・パリモフ(1888-1929)は、ロシア、サマラ生まれ。ロシア未来派の女性画家の一人。キエフ美術学校の教授も務めました。1921年に「モスクワ未来派の画家ヴィクトル・パリモフの展覧会」を東京で開催しています。このころ神戸の蒐集家が入手した作品と考えられます。ロシア未来派の流れをくむ画風であり、テーマも当時を象徴する労働者となっています。

また、セメントを素材とした彫刻作品を手がけた笠置季男の戦時中の作品を紹介。戦争を彫刻で表現した珍しい作品です。

《若人よ空へ征け》は、第30回二科展(1943年)の出品作品。戦時中の時局を反映した航空兵を主題とした作品で、人物を大胆にとらえた戦時中の希少な作品です。



ヴィクトール・パリモフ
《作品(労働者らは工場から帰る)》1920年ころ



笠置季男《若人よ空へ征け》1943年

現代美術の時代 (出品点数約20点)

時代の移り変わりとともに美術の表現方法も多様化してきます。今回新たに収蔵した作品は、1950年代から現在にいたる作品であり、油彩画だけではありません。写真や映像の作品を見ながら、時代と表現とは何かを考えて見ます。

美術家は、しばしばはるか遠くに思いを馳せ、宇宙をテーマとした作品を生み出します。コーナーでは、彼らの限りない世界の探求に注目します。



小西保文《睡魔》1970年



藤本由紀夫《Ears with chair》1990/2010年



野村仁《Grus Score》2004年

【写真4：小西保文《睡魔》1970年】

金山平三賞受賞作家(1978年)の一人。小西保文が体験に基づく内面的な「眠り」をテーマにした時代の作品です。「生きる悲しみ」を感じさせるこの作品は、彼にとって二紀会会員となった記念碑の作品といえます。

【写真5：藤本由紀夫《Ears with chair》1990/2010年】

藤本由紀夫の代表作が新収蔵となりました。椅子に座ってパイプを耳に当てるだけで普段気づかない環境に迷いこませてくれます。館内の2階のスペースに設置された作品に是非座ってみてください。

【写真6：野村仁《Grus Score》2004年】

作品タイトルの「Grus」は、鶴の学名です。鹿児島県出水に毎年飛来する鶴の群れを連写し、それを楽譜の作品として制作されました。写真から音楽化された繊細な音源は、会場で聞くことができます。視覚と聴覚から作品を鑑賞します。

特集2 ブラジル日系人画家の系譜

2008年のブラジル移民100周年を機会にサンパウロ在住の日系人コレクター、リカルド・タケシ・赤川氏より寄贈を受けた作品を紹介します。100年の歴史の移民者たちの中で絵画を志した日系人たちの作品からは、その生活、思考が伝わってきます。日系人画家のまとまったコレクションとしては、サンパウロ州立美術館にせまる質と数で、これまで日本国内で紹介されていない画家たちを含めその動向を紹介します。

赤川コレクションとは？（出品点数約45点）

サンパウロ在住の日系二世リカルド・タケシ・赤川氏は、旅行会社ツニブラトラベル(TUNIBRA TRAVEL CO.,LTD.)の社長です。美術品コレクターとしても著名でブラジル人作家をはじめ世界の現代美術の最先端の作品がコレクションされています。

2008年に神戸旧移民センターを訪れた赤川氏は、かつて祖父が出港した神戸の地に彼の所有するブラジル日系人画家の作品を寄贈する決意をされました。現在日本で働く日系ブラジル人たちに、先人たちの業績を広く知ってもらうことを願って、兵庫県立美術館に65点の作品が寄贈されました。本展では、それらから45点を紹介します。



半田知雄《農民》1956年



フラビオ・シロー《黙示録》1966年

【写真7：半田知雄《農民》1956年】

11歳で家族とともに移住した半田知雄は、日系人の中で初めて芸術活動に専念したひとりです。農具を片手に天を見上げる男性や授乳する女性の姿には、単なる記録ではない象徴的な意味が込められています。

【写真8：フラビオ・シロー《黙示録》1966年】

ブラジル抽象絵画界の第一人者。パリ滞在の後60年代に手がけた表現主義的作品の一点です。抽象と具象、客観と主観の壁を取り払おうとする表現は、ブラジルの美術に大きな影響を与えている作家の一人。

彫刻室 海外の近現代彫刻 / 安藤忠雄コーナー（出品点数約10点）

オーギュスト・ロダンをはじめとする海外の巨匠による彫刻を展示。また、当館設計家の安藤忠夫による震災復興プロジェクトなどを紹介するコーナーも併設します。

小企画 美術の中のかたち - 金氏徹平展

別紙のプレスリリースをご参照ください。

(2階)

小磯良平記念室 (出品点数約10点)

神戸生まれの小磯良平(1903-1988)は、近代洋画を代表する巨匠のひとりです。的確なデッサンとやわらかな色づかいの、気品あふれる人物画で知られています。ハイカラなセンスあふれる画風は、いかにも神戸の町にふさわしいものです。今回は、小磯作品の中ではめずらしい風景画をまとめて展示します。



小磯良平《T嬢の像》1926年

金山平三記念室 (出品点数約20点)

神戸生まれの金山平三(1883-1964)は、風景画の名手として知られる近代洋画の巨匠です。信州や東北をはじめ日本各地を写生に訪れ、落ちついた色づかいと巧みな筆さばきで、情感ゆたかに風景を描き出しました。今回の展示では、寄贈を受けた小品を中心に、金山の小油彩作品の魅力にも注目します。



金山平三《苫屋》

【写真10：金山平三《苫屋》】

金山平三は、海辺の風景を多く描いています。現在の山形県鶴岡市の三瀬あるいはその周辺の漁港で描いた作品と推測される。人の気配を感じる小品(4号)です。本展では、現場で写生したと思われる風景画の小品を集めました。金山の豊かな描写力をご覧ください。

特集1「新収蔵品から見た現代」(2階展示室)(出品点数約3点)

2階展示室6では、寄贈を受けた西山翠嶂(前期展示)、村上華岳(後期展示)の日本画作品とともに、2007年のベネチアビエンナーレに出品された束芋の映像作品を紹介します。



西山翠嶂《短夜》1917年

【写真11：西山翠嶂《短夜》】(前期9月12日まで展示)

西山翠嶂《短夜》(第11回文展特選)は、江戸時代後期の優雅な舟遊びの光景を描き、穏やかな色調を基調とした作品に仕上がっています。また、後期展示の、村上華岳《白描観音》は、伸びやかな線描で菩薩を描いた華岳らしい特徴のよくあらわれた作品です。

【束芋《doleful house》】

ベネチアビエンナーレの企画展に招待作家として出品された作品。Doll Houseに見立てた作品のタイトルDoleful houseは、悲しみに沈みこんだ家という意味です。6分30秒の映像は、ドールハウスを組み立てていく途上に水が流れてきたり、たこが絡まってつぶしていくなどの展開で見る人を引き込んでいきます。

他館情報：国立国際美術館では、束芋の新作による個展が開催されています。

「束芋：断面の世代展」2010年7月10日～9月12日 国立国際美術館HPにリンク(9/12まで)

関連イベント

講演会「ブラジル美術の中の日系人画家」

講師：金澤毅（美術評論家、成安造形大学名誉教授）

10月31日（日）午後2時～3時30分

レクチャールーム 聴講無料

当館学芸員によるギャラリートーク

7月31日（土） 9月4日（土）いずれも午後4時～5時

エントランスホールに集合 聴講無料だが要観覧券

当館学芸員によるレクチャー

「美術館にとっての新収蔵品とは？」

講師：河崎晃一（当館企画・学芸部門マネージャー）

10月3日（日）午後3時～4時

レクチャールーム 聴講無料

ミュージアム・ボランティアによるガイドツアー

会期中の金・土・日曜日 いずれも午後1時から（約45分）

エントランスホールに集合 要観覧券

「美術の中のかたち」関連イベント

アーティスト・トーク 講師：金氏徹平

8月8日（日）午後2時～3時30分 レクチャールーム

ワークショップ 講師：金氏徹平

9月18日（土）午後1時30分～3時30分 展示室+アトリエ

「芸術の館友の会」共催（定員30名）（要申込・有料）

子どものためのワークショップ 講師：金氏徹平

10月24日（日）午後1時30分～3時30分 展示室+アトリエ

小・中学生と保護者（定員30名）（要申込・有料）

お問合せ先 兵庫県立美術館 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

ホームページ <http://www.artm.pref.hyogo.jp>

【取材・写真提供に関する事】 営業・広報グループ

TEL:078-262-0905（直） FAX:078-262-0903

【企画内容に関する事】 企画担当学芸員 河崎 晃一

【美術の中のかたち - 金氏徹平展 企画内容に関する事】 企画担当学芸員 出原 均

TEL:078-262-0909（直） FAX:078-262-0913

広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

金氏 徹平 展 Ghost in the Museum



《Splash and Flake (Pipeline)》2009 年
木、プラスチック製品、金属製品 撮影：武藤滋生 横浜美術館展示風景

会場：兵庫県立美術館

会期：2010 年 7 月 17 日（土）～11 月 7 日（日）

平成元（1989）年度より開催している「美術の中のかたち - 手で見る造形」展は、従来視覚のみに偏っていた美術鑑賞の機会を、視覚障害者の方にも提供し、あわせて作品に手で触れることで、健常者の方にも視覚以外の感覚器官を通じた美術鑑賞のあり方を探っていただくという試みで、今年で 21 回目を迎えます。

今回は若手作家の中でも活躍著しい金氏徹平氏（1978 年 京都生まれ）を迎え、「Ghost in the Museum」と題して、展覧会を開催します。

金氏氏の作品を中心に、当館の所蔵作品や日用品も並べ、観客が視覚と触覚によって作品を鑑賞する展覧会になります。今回、立体作品だけでなく、平面作品も出品する予定です。

展覧会のコンセプト

これまでの「美術の中のかたち」展では、触覚による「かたち」の知覚を重視してきました。したがって、出品作品は、ブロンズや石、木、布といった単一の素材でできたものが主でした。今回の展示では、むしろ素材の多様性に注目します。

金氏氏は、さまざまな日常品を組み合わせる、いわゆるコラージュやアッサンブラージュの方法で作品を制作してきました。その素材は、たとえば、プラスチック製品（フィギュアを含む）や木製品、鉄製品、ゴム製品など多種多様です。さらに、塗り絵本、白地図といった平面の作品もあります。

このように、さまざまな素材を使って制作してきた金氏氏に制作を依頼し、美術の中の「素材」に焦点を当てます。金氏氏は、作品だけでなく、当館の収蔵彫刻、作品の素材として使われるようなものも一緒に並べることで、それらの違いを来館者が視覚・触覚を通じて確認し、どのようにして作品が成り立つかを探るような展覧会を企画しました。美術作品の成立する契機を考える野心的な試みです。



《 Teenage Fan Club #23 》2009年
© KANEUJI Tepei courtesy ShugoArts



《 White Discharge (建物のようにつみあげたもの #3) 》2009年
Plastic, Wood and Steel Found Objects, Pigment, Resin
282 x 109 x 109cm © KANEUJI Tepei courtesy ShugoArts

金氏徹平(かねうじ・てっぺい) 略歴

1978年 京都生まれ

2002年 個展(児玉画廊 大阪)

2003年 京都市立芸術大学大学院修了

「KOBE ART ANNUAL2003-Grip the Gap-」(KAVC 神戸)に出品

2005 「横浜トリエンナーレ2005」(アーティスト・ユニット COUMA として)

2007年 「笑い展:現代アートにみる『おかしみ』の事情」(森美術館 東京)

「VOCA展2007」(上野の森美術館 東京)出品

個展(広島市現代美術館ミュージアムスタジオ)

「美麗新世界:当代日本視覚文化」(東京画廊+BTAP 北京/広東美術館 広州)

2008年 個展(トーキョーワンダーサイト渋谷 東京)

「MOT アニュアル2008」(東京都現代美術館)に出品

2009年 個展(横浜美術館)

個展「変成態 vol.6」(Mギャラリー 東京)

2010年 個展(シュウゴアーツ 東京)

「レゾナンス」(サントリーミュージアム[天保山])

現在、京都市立芸術大学講師

関連イベント

アーティスト・トーク 講師：金氏徹平

8月8日(日) 14:00-15:30 レクチャールーム

ワークショップ 講師：金氏徹平

9月18日(土) 13:30-15:30 展示室 + アトリエ

「芸術の館友の会」共催(定員30名)(要申込・有料)

子どものためのワークショップ 講師：金氏徹平

10月24日(日) 13:30-15:30 展示室 + アトリエ

小・中学生と保護者(定員30名)(要申込・有料)

お問い合わせ：TEL:078-262-0908 こどものイベント係

お問合せ

兵庫県立美術館 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

ホームページ <http://www.artm.pref.hyogo.jp>

【取材・写真提供に関すること】 営業・広報グループ

TEL:078-262-0905(直) FAX:078-262-0903

【企画内容に関すること】 企画担当学芸員 出原 均

TEL:078-262-0909(直) FAX:078-262-0913

兵庫県立美術館 2010 年度コレクション展
特集1「新収蔵品から見た現代」
特集2「ブラジル日系人画家の系譜」
小企画「美術の中のかたち - 金氏徹平展」

広報用写真や読者・視聴者プレゼント用招待券(最大10組20名まで)もご用意しております。ご希望の場合は、ご請求ください。

営業・広報グループ 行

F A X (0 7 8) 2 6 2 - 0 9 0 3

希望写真(作品名)	
貴社名	
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ TV・ラジオ・インターネット
ご担当者名	
ご住所	〒
電話番号	()
F A X 番号	()
メールアドレス	@
URL	
掲載・放送予定日	
写真到着日希望	
読者・視聴者プレゼント用招待券(最大10組20名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限ります)	組 名分希望

写真データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできませんので、ご了承ください。

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)などを、下記宛にお送りくださいますようお願い申し上げます。

本展覧会会場の取材、撮影をご希望の場合は、下記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材、撮影はお断りいたします。

兵庫県立美術館 営業・広報グループ
 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1
 電話(078)262-0905